

すてきに人生



枯れ木の撤去作業

10月26日に、特定非営利活動（NPO）法人「山の自然を愛する会」が社団法人国土緑化推進機構理事長賞を受賞しました。

同会は、クマが頻繁に出没したことから、植樹などの自然環境保護、野生動物の被害防止を目的として、今から3年前に結成。

現在45人の会員で、森づくり仕事隊での倒木撤去作業、他団体との山道整備や河川敷のごみ拾い、地元で拾ったドングリを苗木にして生育させ、交流の森づくり事業での苗木の提供や植樹など自然環境保護を中心とした活動や、会員のみを対象にしたトレーニングや冬山登山など、地元の自然を楽しむ活動を続けています。

各自の仕事などのため、活動に全員揃うことが難しい一方で、「賞をいた



森づくり仕事隊事業に参加した皆さんと

いただいたことは会員の励みになるので良かった。」と、理事長の水上満さんは感想を述べてくれました。

来年は福井県で全国植樹祭が開催されます。「全国植樹祭の開催に合わせ、地元のドングリを苗木にして山へ返そうと、ドングリの苗木の提供を予定しています。」と、水上さんは来年のことについても語ってくれました。

出会いふれあい



年の市に出店する商品について話し合うメンバー

代表の榎次郎さんは、「当初、その場の雰囲気が発足さ増えてきています。また年の市の出店には、皆が前向きでとてもうれしく思います。」と、心境を語ってくれました。

全員集まることが少ない中で、勝山をもっと好きになってもらおうと、皆さんはがんばっています。

地元のドングリを苗木にして山へ！

特定非営利活動法人 山の自然を愛する会

勝山がもっと好きになるプロジェクト

らぶ勝

勝山市内に生まれ育った若い店主のグループ「らぶ勝」。

昨年5月に、「勝山がもっと好きになるプロジェクト」をキャッチフレーズに最初3人で立ち上がったこの会も、現在では約20人となり、着実に力をつけ歩んできています。

これまでの活動として、インターネットを使ったブログ（公開日記）で勝山のイベントなどを紹介する「らぶ勝瓦版」や、勝山の風景ポストカードの作成、手作りマップの配布などのほか、

福井市内で行われた秋の市では、勝山のそば粉で作ったクッキーを販売するなど、勝山を紹介する活動に力を注いできました。

12月4日の例会では、来月の年の市に出店するための話し合いが持たれていました。「年の市には、今回初めて出店しますが、何でもできることから実行し次につなげたい。」とのこと。

各自が持ち寄った試作商品を食べながら、味や素材について話し合い、「おしよつ。」と、大きさや数量、値段などについても種々意見を交わしていました。

ハロウィンパーティーで交流！



11月15日、教育会館において「ハロウィンパーティー」が開催され、市内の小学生64人が参加しました。

外国の異文化に触れてもらおうと、勝山市国際交流員のスティーブン・シュローダーさんが企画し、県内の外国語指導助手（ALT）の皆さんもいっしょになって実施しました。

参加した児童たちは、最初、海賊や動物などに仮装したスティーブンさんたちによるハロウィンを説明する紙芝居や寸劇を鑑賞し、その後4つのグループに分かれて大きなカボチャを使ったジャック・オ・ランタン作りやゲーム、お面作り、お化け屋敷などを楽しみ、黄色い声飛び交っていました。特に最後のお化け屋敷では、中村有紀那さん（9歳）は「とても怖かった。大人でも泣いてしまう」、森覚史さん（8歳）は「ぜんぜん怖くない。おもしろかった。」と、声を大きくして感想を語ってくれました。

企画したスティーブンさんは「大変楽しんでもらえて良かったと思う。ぜひ来年も行いたい。」と、意欲をみせていました。

自然薯掘りを体験しました！

11月15日、荒土町細野（西ヶ原区）の圃場にて、JAテラル越前と勝山市自然薯生産組合の主催で「自然薯掘り体験事業」が行われました。

市内外から集まった14組約30人の参加者は「パイプを割らない」「自然薯を折らない」など、最初に係員から注意点を聞いた後、順番に自然薯を掘り出していました。自然薯は3本掘って1本は持ち帰れることや、掘り出した自然薯の中から表彰されるとあって、参加者は大変慎重に掘り出していました。

家族で参加した田村春菜さん（10歳）と岩佐円花さん（8歳）は、「楽しかったので、また来たい。自然薯はおいしくいただきます。」と、掘り出した自然薯を見せ、にこやかに感想を語ってくれました。

主催した自然薯生産組合の石塚元良組合長は、「今年で6回目ですが、今後も勝山の土産として知っていただけるよう続けたい。ご贈答にもぜひご利用いただきたい。」と話しています。



岩佐円花さん（右）と田村春菜さん

第3回繊維展の開催

11月22日と23日、子どもからお年寄りまで多くの市民に勝山の繊維を広く知ってもらおうと、勝山市繊維協会主催の「第3回繊維展」が教育会館において開催されました。

地元企業の製品展示、手染め、手作り、体験、パネル展示の各コーナーでは、ぬくもりのある工夫が凝らされ、多くの市民のかたがたが繊維を肌で感じ取っていました。

特に体験コーナーでは、親子で挑戦するほほえましい姿も見られ、会場を和ませていました。「繊維を少しでも知っていただきたいと、子どもさんにも体験できるコーナーを設けました。一方、今や勝山の繊維は3分の1以上が非衣料で、また鉄より強い糸も開発されるなど、繊維は未来への可能性をたくさん秘めています。」と、繊維協会の白木督三会長は熱心に語ってくれました。

いよいよ来年には、旧機業場がオープンします。繊維展も旧機業場と連携しながら、開催していきたいとのことでした。



親子でロープ作りを体験